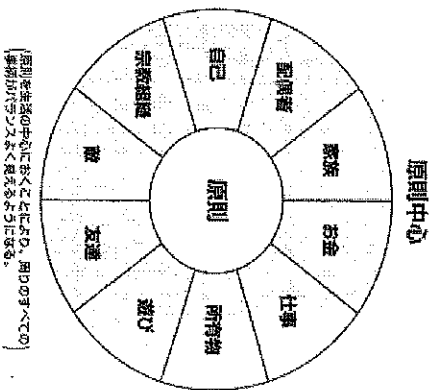




「原則」とらえた生活」 ～ 「7つの習慣」から～

「7つの習慣」は、筆者もよく読み返している本です。何度も読み返すに耐えうる内容です。この中に、「インサイドアウト」という考え方が出てきます。「インサイドアウト」とは、「自分自身の内面から変える」ということ。詳しくいえば、自分自身の根本的な考え、人格、動機等を変革することからまず始めることだ、と書かれています。

一見、自分自身の内面から変えると、周囲の人々の意見と衝突し、課題が残ると思われるかもしれませんが、実は、このようなアプローチによってこそ、周囲を巻き込んだ形の成功に導かれるということだと考えられます。



【原則を生活の中心に据えることにより、周囲のバランスよく整えるようにする。】

その際の判断の基準ですが、左に示すような「原則中心」のとらえ方、があります。

具体的には、何を自身の行動の根拠とするか、ということです。例えば、仕事(学習)と家庭、娯楽等の間で、何に重きを置くかにより、行動のあり方が異なってきますね。しかし、一つの決断を下す時に有効なことは何か。

ここで、「原則」つまり自分自身の考え方の中心をとらえておくことが必要不可欠。図のとおり、「家族」「お金」「仕事」「所有物」「遊び」「友達」「敵」「自己」等、多様な価値意識が働きますが、それらの全要素を総合的にとらえ、バランスのよい判断を行いたいですね。「学習力」の観点とも、どこか通じ合います。

小論文ワンポイントアドバイス

： 「新聞学習の方法」～ 齋藤メソッドから～

齋藤 孝 明治大学教授の著書「新聞で学力を伸ばす」から、「学力」(学習力)を向上させる一手立てを挙げます。教授によると、新聞学習は有効であり、論の立て方に一定の枠組みを設けることで、プレゼンテーション能力の伸張にも効果的だといえます。具体的には、次のようにむしるシンボルな形式です。

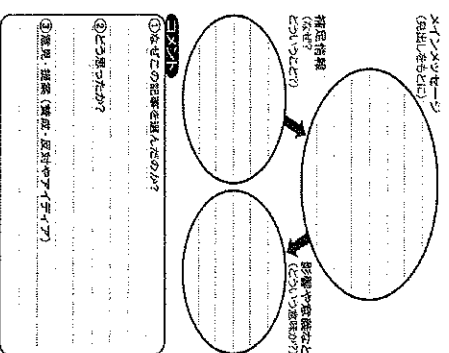
「新聞学習シート」

- A 「メインメッセージ」を置く。
- B 「補足情報」を置き、「メインメッセージ」を補う。
- C 「影響や意義」を加えて、論の展開を示す。

さらに、コメントとして、

- ①記事選択の理由
 - ②感想
 - ③意見・提案
- を付加。

これを用いての、「30秒できばぎプレゼン」なるものも提案されています。①メイン(柱)→②補足→③影響→④意見・提案。冗長にならず、簡潔に伝える訓練です。



◆ 3学年で取り組んでいる新聞学習 (「Today's News」[コラムノート]) 等、継続学習を期待しています。今回紹介した「新聞学習シート」も、記入例を含めて活用できる形にしています。